

第242回教育研究評議会議事要録

1. 日 時 平成27年5月19日（火） 14:40～16:40
2. 場 所 事務局 第2会議室
3. 出席者 中井学長、功刀副学長、三浦副学長、神子副学長、千葉副学長、
千葉人間発達文化学類長、朝賀評議員、松下評議員、
久我行政政策学類長、田村評議員、鈴木評議員、
真田経済経営学類長、阿部評議員、佐野評議員
二見共生システム理工学類長、佐藤評議員、
小島統括学系長、中村事務局長
【オブザーバー】青柳理事
4. 欠席者 小沢副学長、山口評議員、平山監事、高橋監事
5.
 - 審議事項
 1. 教育研究組織の見直しについて 資料1
 - 報告事項
 1. 学長裁量経費（新区分）の取組計画について 資料2
 2. COC+について 資料3
 3. 福島大学ソーシャルメディアポリシーについて 資料4
 4. 人間発達文化学類と国見教育委員会との連携・協働に関する協定の締結について 資料5
 5. その他

【確認事項】

第241回教育研究評議会議事要録を原案のとおり確認した。

【審議事項】

(1) 教育研究組織の見直しについて

功刀副学長から、資料1に基づき、これまで全学教育研究改革委員会で検討してきた、新たな教員の所属組織である「教育研究院」の設置に向けた方針について提案があった。

審議の中で、以下のような意見が出された。

- ・人事戦略室会議を廃止して新たに作るならば、新たにその規程を定める必要があるのではないか。
- ・“一元化による管理”が強く出すぎている表現になっているため、部局の意向

が反映されないのではという不安が生じるのではないか。

- ・学類の意見を踏まえるということを明確に示した方が良いのではないか。
- ・現在ある人事戦略室会議と同じ機能であるならば、新たに所属組織を作る必要性はないのではないか。

意見を受け、功刀副学長から、①今回は、あくまでこれからの方針を示したものであり、今後この方針に従って規程を整備する予定であること、②新たに所属組織を作ることにより、福島大学の教員であるという全学的な意識を持ってもらいたいということ、③教員数や総人件費の管理を踏まえて人事を行うためには、採用や昇任人事を学類だけで決定するのではなく、全学的な人事管理を行う体制として今後の人事管理を円滑に進めていくために、全教員が所属する教育研究院が必要であるという説明があった。

また、中井学長から、①それぞれの部局の事情を鑑みながらも、より効率的な人事管理の必要性があること、②これまでもあったように、大学内での部局異動はあり得ることであり、その際には教員の意向に十分配慮し、納得した上で人事を進めていきたいという説明があった。

審議の結果、資料を一部修正の上、各学類教員会議へ意見を聴くこととし、継続審議とした。教員会議のスケジュールから、第244回教育研究評議会（7月7日開催予定）で各学類からの報告をすることとした。

【報告事項】

（1）学長裁量経費（新区分）の取組計画について

中井学長から、資料2に基づき、平成27年度予算で新設された学長裁量経費（新区分）約1億5千万円の取組計画について、文科省から示された様式に落とし込んで提出したとの報告があった。

各学類教員会議へ、教員控室に資料掲示の上、報告することとした。

（2）COC+について

中井学長から、資料3に基づき、国が要請しているCOC+の事業内容について、地方創生に係る県からの要請や、地域に貢献する本学の使命等、本学の置かれている諸状況を鑑み、申請する方向で準備していくことについて報告があった。

各学類教員会議へ、教員控室に資料掲示の上、報告することとした。

（3）福島大学ソーシャルメディアポリシーについて

青柳理事から、資料4に基づき、第366回役員会（5月18日開催）にて承認し制定された、教職員、学生のソーシャルメディアの利用拡大に伴う、本学のポリシー制定について報告があった。

各学類教員会議へ、教員控室に資料掲示の上、報告することとした。

- (4) 人間発達文化学類と国見教育委員会との連携・協働に関する協定の締結について
千葉人間発達文化学類長から、資料5に基づき、教育上の諸課題に対応し、相互に
連携・協働するため、国見町教育委員会と協定を締結することについて報告があっ
た。

各学類教員会議へ、教員控室に資料掲示の上、報告することとした。

- (5) その他
特になし